

国際交流員による国際理解講座 事業報告

国際理解講座「多文化社会 ～フランスとイギリス～」



国際交流員を講師として母国の歴史や文化、生活様式などを紹介する講座を府民向けに開催することで、国際交流員と府民との交流機会を増やし、府民の国際理解を促進させる。今回、国際交流員の自国における多文化社会を紹介し、府民の国際理解とフランス、イギリスに関する知識を深める。

日時： 2013年5月12日（日）、18日（土） 14:00～16:00

講座内容：

タイトル	内容
第1回目 「多文化フランス」	プレゼンテーションを通して、フランスにおける移住の概要（歴史、統計、出身、住居地）、移住制度（在留資格、帰化、法律）をまず紹介しました。 それから多文化社会向けの統合政策（国、地域と学校で）について解説しました。最後に、「パリ 20 区」という映画の一部を見せながら、現状と今の課題について話しました。 ※日本語で講義
第2回目 「多文化イギリス」	英国の多文化社会を説明するために、最初にイギリス、特にイングランドの歴史を説明しました。このベースを使い、移民や移住の理由、機会なども説明しました。多文化社会による利点、欠点も紹介し、日本と英国を比較し、未来の傾向を少し考えさせました。ビデオを見せてから、「イギリス人というのは特定に一つの文化や民族ではなく、多文化社会である」ということへの理解を高めました。 ※英語で講義

会場： 京都府国際センター（京都駅ビル 9F）

対象： フランス、イギリス、多文化社会、多文化共生に興味のある方

参加者： 1回目：36名、2回目：38名

主催：（公財）京都府国際センター

アンケート結果：

- * 基本的なフランスの移民の暮らしや移民に対する政策について講義して下さった上でさらに理解を含めるために最後にパリ 20 区の映画を見るという内容が非常に良かったと感じました。フランスの方が講演して下さったのでよりフランスの移民のリアルな現状を知ることができた気がしました。
- * フランスの多文化共生を日本と比べて随分進んでいると思いました。日本では留学生を増やすこと・研修生等活動力として国際化が進んでいるが、どの様に多文化を受け入れていくか

方向が定まっていないのでそこまで外国人の受け入れが進んでいない。フランスの移民受け入れとは歴史の長さも全然違ってとても勉強になりました。

- * 教育制度の裏にある保護者への母国語教育を国がしていると聞いたので日本もそうなってほしいです。
- * 多文化社会の話から日本の将来の問題につながってゆくという素晴らしい内容でした。変わりやすい内容でかつ、話し方（声のトーン、表情、心のこもった話し方、ジョークを混ぜる）が大変よく、大満足です。英国の **multiculturalism** の現状が全く想像と違って、大変興味深かったです。テーマに沿った内容で良かったです。多くの新しい事を学ばせてもらいました。

講座の様子：

